

第3回福井城址活用検討懇話会

日 時：令和3年3月4日（木）10：00～12：00

場 所：県庁6階 大会議室

1. 挨拶（西村座長）

- ・来年度に3回程度懇話会を開催して、目標としては今年の12月くらいに方向性をまとめていきたい。今回は中身について議論していきたい。
- ・懇話会の1回目、2回目はどちらかというインプットで事情を聴く、幅を広げていくという感じだったが、今回からは、実質的に、どのように取りまとめていくかということも含めてディスカッションして、とりまとめていきたい。

2. 議事

<1. 事務局報告>

「市民・県民との意見交換会」、「山里口御門入場者属性等調査」結果概要

[中村委員（県内大学生との意見交換会に参加）のコメント]

- ・歴史的な空間に興味を持っている人が少なく、インスタ映えするものや商業施設など集客できるものを城址に持ってくればよいという意見があったが、歴史的な空間にそういったものを入れるだけでは将来的に負の遺産となると思うので、少し違うのではないかと思った。
- ・面白い意見としては、文化施設が建ちながらも、経済も回せるような空間にすることが大事という意見があり、文化的機能を持ちつつ、現代に合った景観にしていくことが重要であり、そういう意識を若者にも持ってもらい、次世代に継承できる空間づくりをしていくことが大切だと感じた。

[黒川委員（県内大学生との意見交換会に参加）のコメント]

- ・福井城址内に入りにくい、そもそも知らないという意見が非常に多かったので、まず福井城のPR活動を充実させていく必要があると思う。
- ・駐車場代がかかるから人が集まらないという意見や、無料の駐車場がないので必要という声があったが、無料の駐車場をつくることには反対である。駐車場を無料にするというアプローチではなく、福井城址の魅力を向上させる方向で考えるべきである。
- ・経済性を重視した意見が多いという印象だった。歴史を感じられる場所にしつつも、経済性も持たせるために、どのような活用をしていけばよいのか落としどころを考えるのが難しいと感じた。

<2. 福井城址活用に関する意見交換>

（委員からの提案）

（委員A）

【短期的活用策】

- ・計画段階から運営の仕方や市民の使い方を想定するという考え方で、仮設空間である実験フィールド「本丸シビック・ラボ」の設置を提案する。例えば、1か月間、図書館の

分室を置いてみるなど、様々な機能について、行政、運営者、市民が学んで、理解を深め、機能が入った時に何が起こるかを小規模に実証していくイメージである。

- ・マネジメントや空間づくりの専門家をアドバイザーとして置き、定期的なアドバイスを受けることも考えられる。

【長期的活用策】

- ・施設ありきではなく、計画段階から運営の仕方や市民の使い方を想定して、活用方法を探っていくことが大事。
- ・日常と非日常の場が共存することが望ましい。また、日常の場となるには、中心市街地の回遊経路のハブとなる必要がある。徒歩・自転車が中心だと思うが、公共交通との連携も重視すべき。
- ・福井城は文化を創造する場であるとよい。巡回展等が来て、ただ文化を消費するのではなく、文化を生み出せる場所であると、まちの独自性を育てていけるし、まちの価値もつくっていく。
- ・県内・市内の公共施設と民間施設の整備・配置状況から地域全体における位置付けを明確にする必要がある。

(委員B)

【短期的活用策】

- ・城址に来てもらうにはやはり子供に興味を持ってもらい、さらに親がそれに引っ張られてやってくるというのがよいのではないかと。しかし、歴史だけで子供に興味を持ってもらうのは難しいので、気軽に歴史に触れるきっかけ作りが必要。そういう意味で子供たちに人気なゲームとのコラボを行えば、福井城を認知してもらえるのではないかと。
- ・県庁1階の県庁ホールと北側の雁木積みの間にある木を伐採し、ちゃんと石垣を見せる。また、その横にある喫煙所も撤去して石垣を見せるというような、来た人が福井城の実物をきちんと見ることができるようにもすることも大事。

【長期的活用策】

- ・施設を造るとしたら復元をしたい。造らないのであれば芝生でよい。
- ・もし造るのであれば、市民等に建物への愛着をもってもらうために、製材から左官、土壁の竹編み等を体験してもらうのも一案。
- ・復元した建物は、ただ造るだけでは負の遺産を増やすだけなので、修学旅行の宿泊施設として活用するなど、計画段階から活用について考えていく必要がある。

(委員C)

【短期的活用策】

- ・整備した山里口御門や福の井について、まだ全然知られていないと思う。学校教育に取り入れていくなど、まずは知ってもらうことが大事である。若い世代が知ることが将来に効いてくるのではないかと。カフェやライトアップはきっかけとしてはありかなと思う。

【長期的活用策】

- ・歴史はやはり大事で、それにプラスして新しい文化を作っていくという両面があってこそ、福井独自のものになると思っている。歴史を大事にしながらも統一感のある雰囲気を持った空間・公園にすることが大事かなと思う。

- ・文化的な施設に関しては、そこに行きたいと思えば行くので、ビジネス目的よりは文化を推していく方がよいと考える。何を造るにしても、造った後の運営を継続していく仕掛けづくりが大事である。

(委員D)

【短期的活用策】

- ・少子高齢化や豪雪、地震、風水害等の危機管理などで財政は苦しく、また、何が起こるか分からない時代の中では、建造物に大きなコストをかけるべきではなく、総合的な活用に注力すべき。

【長期的活用策】

- ・県立美術館や県立歴史博物館、図書館、文学館など老朽化していっくだろ施設は、建替え時に建設地の議論が行われるため、この時に、50年前に行われた跡地活用の議論を活かすべきではないか。つまり、一大文化施設がよいのではないかという意見である。ただ文化的なことを学ぶだけではなく、憩えて楽しめる空間があるようになれば、駅前の繁華街との兼ね合い・連携もあって繁栄した市街地になるのではないか。

(委員E)

- ・「城」の活用とは維持、保存、継承が大前提にあるべきだと考えている。活用という、櫓やその他の建物を建てることになりがちだが、土台となっている部分にどれだけの文化的価値があるのかが大事で、これを棄損する可能性のある行為は安直に行うべきでない。

【短期的活用策】

- ・市民の方等に福井城についての理解を深めてもらいたい。福井城にはまだ多くの大切なものが残っているのに、行った事がない人が多い。インターネットで「福井城」と検索しても、福井城の情報がほとんど出てこなかった。まだできることが身近にあるのではないか。

【長期的活用策】

- ・城は本丸だけでなく、その周りにもたくさんの施設があり、城下町がある。そして、城を中心として城下町ができたことで、地域が発展し、産業や文化ができたことを考えると、広域的な理解は欠かせない。広域的に見た時に、観光地として活用するのであればルート・動線を考えていくことが重要である。

(委員F)

【短期的活用策】

- ・県庁の地下1階の「正庁」を土日に各種団体へ開放して活用してもらおうのがよいのではないか。また、11階を展望フロアにして、屋上に景観を活かしたカフェを設置してはどうか。

【長期的活用策】

- ・県内外から人が集まる場所として、コンベンションホールの建設が望ましいと考える。
- ・建物を復元しても、歴史がないので人は集まらないと思う。福井には伝統工芸や食事、景観等素晴らしいものが他にもたくさんあるので、福井城址は無理に歴史的なものにする必要はなく、利益を生み出す場所とすることで良いのではないか。

(委員G)

【短期的活用策】

- ・歴史を伝える場所として、県庁1階の県庁ホールと食堂や喫茶店の壁を抜いた1つの空間を使って、カフェが併設する書店とし、例えば、松平春嶽が食べていたものを春嶽定食というメニューとして出してはどうか。
- ・また、春は桜がきれいなので東屋を配置して、県民がストリートピアノを自由に弾けるようにすると空間に動きができるのではないか。
- ・学生の自学スペースもあれば、福井城址の歴史にも理解を深めてもらえるきっかけになるのではないか。

【長期的活用策】

- ・公園があると良い。ランドマーク的な城址ではなくて、カフェやカルチャーサロンなど常に人が集まるようなものや、子供が楽しめる児童科学館的なものがあると良い。
- ・どういう風につくってどう発信するのかを任せられる通年のクリエイティブディレクターやアートディレクターを雇用する予算があると良い。

(委員H)

【短期的活用策】

- ・時代の先端に行く店舗などを行政空間に仮設的に置くようにすると良いのではないか。行政空間の活用をもっとラフにやっていくことで、行政の堅いイメージを、最先端のものがあるのだというイメージに変えていくことがベストではないか。

【長期的活用策】

- ・福井城はいくつもの歴史がミルフィーユのように重なってできている。福井城址を、常に何百年経っても、ここに居続ける理由となるものにすべきだと思っている。最終的には、変化のあるものを持ってくるのが重要であり、行政を移転するのではなく、徐々に減築していくようなものを持ってくるべきと思う。

(委員I)

【短期的活用策】

- ・お堀や石垣を最大限活用してアピールすると良い。覗けば復元された福井城を見ることが出来る装置をつくるなどして、観光客に福井城を見せるという工夫ができると良い。
- ・中央公園にカフェをつくったり、高校生の自学スペースを設置すると、放課後や土日に学生が集まり、城址周辺がにぎやかになるのではないか。

【長期的活用策】

- ・お城は、お堀の周りを歩いて見えるところであったり、シンボリックなものだけでも復元出来れば歩いて楽しくなると思う。
- ・歴史や文化を残しつつ経済性をもたせるために、福井の魅力を詰め込んだテーマパークのような施設や空間がつけられると良い。

○意見交換

(西村座長)

- ・短期的な活用に関しては、既存施設をもっとうまく活用すべきだという話と、実験的、仮設的な空間をつくってはどうかという話、また、教育的な、色々な意味で情報発信が

必要だということが各委員の共通した話であった。

- ・長期的な活用に関しては、より広域に他の施設のことも考えることも必要ではないか。
- ・来年度で何かが決まってしまうことはおそろくないので、こういうまとめ方だったらこうできるのではないか、これは将来的に見たときも大事な考え方である、などそこに至る考え方やまとめ方も含めて議論できるだろう。
- ・他所の活用事例や県内の公共施設の将来的な流れの中での位置付けといった背景などのデータが欲しい。それらを明らかにすれば、我々委員が活かせる場面もあるだろう。

(事務局)

- ・各委員の意見の中で方法論を決めていくというやり方もあるし、色々なパターンの展開例を考えてみるというやり方もあると思っている。
- ・懇話会自体は城址周辺の範囲で議論しているが、どうしても全体のまちなかのにぎわいが入ってくるので、そのこのところをある程度整理していく必要がある。

(委員の意見)

- ・文化施設に限らず、文化を知ることができる場所というものはやはり大事。県立図書館の松平文庫や郷土歴史博物館など、福井城に関する文献が点在してしまっているのも、それらを集約できれば、学術的にも分かるし、その前段階として福井の歴史を理解できる。
- ・福井県は、ある意味色々なものがある県ではあるが、歴史的に見ればこんなにバラバラな県はない。福井城が復元されて、それを県民が福井県の顔なんだと賛同してもらえるかということについては大きな疑問である。
- ・福井駅を福井の玄関口とするのであれば、城址は嶺南のものも嶺北のものも全てあつて楽しめるような観光情報の拠点、歴史を学ぶ拠点としての活用が一番よいのではないか。
- ・県庁もそうだが、民間も県民の方の憩いの場になるような建物を建てないことが多い。とても残念。そういうところがおそらくバラバラと言われる理由なのだと思う。
- ・短期的な活用について、結局できる、できないが分からないと意見を出しても意味がないのではないか。
- ・にぎわいというものを前々から疑っており、全てがそんなにテンションの高い空間である必要はない。中心市街地の中での位置付けをつくっておいた方がよい。そのような位置付けを中心市街地の中でも進めていきながらでないと、活用の仕方や計画について多様な意見が出ている状況で共通認識が得られないのではないか。

(事務局)

- ・案内板の設置や情報発信に関しては工夫次第でできる。ライトアップやプロジェクションマッピングなどは時々でやっていることもあり、技術的には可能と考える。おしゃれなカフェや展望台レストランなどについては検討が必要。
- ・県庁地下1階の正庁は現在コロナ対策の本部に使用されていて、現状代替となる場所がない。県庁の屋上は防災無線のアンテナなど色々なものがあり、また、展望が必ずしも良いわけではない。行政が使っているということで入りにくいというところもあるが、公共財産ということで色々と制約を受けてしまうところはある。

- ・県庁1階の県民ホールでは、昼休みに障がいをお持ちの方が作ったものが売られたり（セルフフェア）、幼稚園の方に来てもらい、ひな祭りなどの時には発表していただいたりしているときもあるので、できることとできないことを整理していきたい。
- ・案内板については、設置された時期が段階的で、あるところは詳しく他方では説明が不十分で統一性がない。VRアプリは江戸時代約250年の歴史のどこに焦点を合わせるかという時代考証の難しさもある。VRを使いやすくして欲しいという意見はあるので、AI、IoTを活用した仕組みなどもできるように、今後検討していきたい。
- ・この場では、いくら予算の制約があつてというような議論はしたくない。この地域が全体として良くなるために必要なお金であれば、予算をかけなくてはならない。極端に何百億もかけるというようなことについてはしっかり議論しなくてはいけないが、それも本当に必要なのであれば真剣に考えていく。

(西村座長)

- ・最初はお堀の中、石垣の中だけでという形で議論を開始したが、実際は福井城址が中心市街地の中でどういう位置付け、役割なのかなど、周りのことも考える必要が出てきている。また、過去に県庁が建った時の長い議論があるので、それをきちんと見直して考えないと、また同じことをやってしまうことになり、せっかくその頃議論してきたときの蓄積が活用されずもったいない。ぜひそういったところも考えてもらいたい。
- ・すぐにでもできるかもしれないという議論については整理し、具体的にしてもらいたい。今日出た意見を整理してもらえれば、随分いくつかの柱が見えてくるのではないか。例えば次の会議が始まる前に少しこの辺りのツアーをしてもらい、議場がどうなっているか、もし転用するなら、というような視点で実際に見てみるとイメージが湧くかもしれない。そういうことも次の会議に向けては考えてもらい、イメージをもっと膨らませた議論ができるようにしていきたい。